

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

● 第100回 ●

■ 祝！百回！！

クラス別特別で優勝したので、通常ならその自戦記を書くのだが、今回は何と言っても記念すべき百回目の連載である。そのことを書かないわけにはいかないというところで、自戦記は別途書くこととし、百回の歴史を振り返ってみよう。

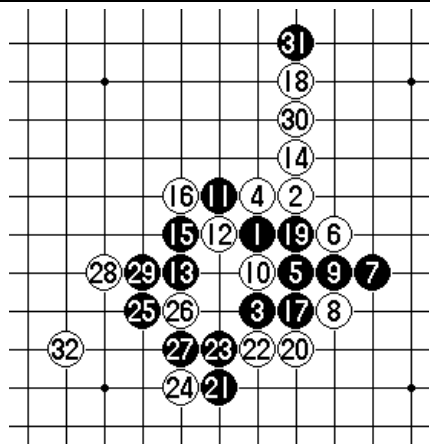
①第1回（珠友 241号、03年5月発行）

当然のことながら、100号前が第1回となる。この時のタイトルは、「若手の対局を並べてみた」となっている。当時若手で活躍していた高嶋君と田村君の対局を中心に感想を述べている。当時の編集長であった高川さんから「何か書きませんか？」とオファーがあり、私も書きたいと思っていた

ので随想的なことを書いて連載することにした。タイトルは連珠の魅力伝えるものが良いと思い、「連珠っておもしろい」とした。この時にはまだスタイルは確立していなかったが、なるべく2ページの完全原稿を書き、編集の負担を少なくしたいとは思っていた。ちょうど関東に移ったところだったので、中村名人の研究紹介などネタにはあまり困ることはなかった。自分が参加していなくても、世界戦などは棋譜が見られるので研究を載せればよい。さて、その中から割と面白かった号を紹介しよう。

②第3回（珠友 243号、03年9月発行）

タイトルは、「懸案事項解決」である。この背景は、当時明星で懸案事項があり追い詰めかどうかが不明であった。そこではいろいろ調べたが、ついには追い詰めなし、という結論になった。

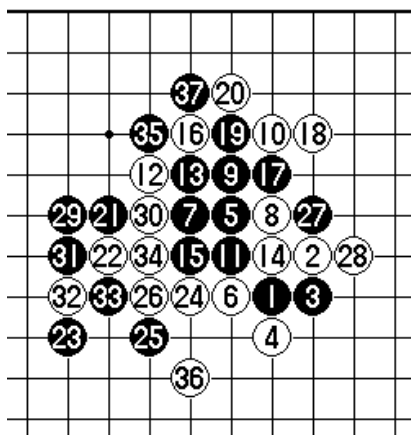


右図がその代表例で、32の夏止めで止まっている。今ならソフトを使えば簡単だが、当時はかなり時間を費やした。しかしそれが血となり肉となるのである。当時は十九道の吉澤名人もこの勝ちを連載しており、私が勝ちなしとお伝えすると、黒13を14から叩いて別解を出されていた。今も黒13は14から叩くのが主流だろう。

③第6回（珠友 246号、04年3月発行）

タイトルは、「定石は難しい??」である。これは城

西連珠会で中村名人の研究に触れたことを書いています。まずはその最終譜をご紹介します。

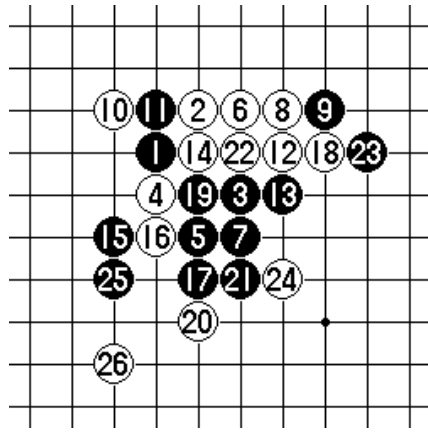


黒37で四三になっているが、実は黒11から追い詰めとなっている。変化も多いのだが、黒23の含み手、黒27の三引きなどがカギである。各手にちゃんと意味があり、手順前後もダメを教えてもらうだけでも凄く価値がある。

④第16回（珠友 256号、06年1月発行）

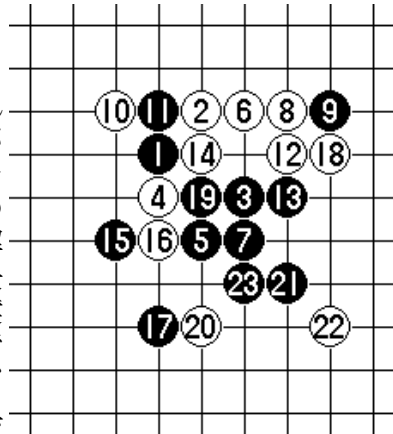
タイトルは、「水月定石の

変化”である。定石研究シリーズの一つで、当時ちょっと流行したらしい。例によって勝ちがわからない。例によって調べることとなった。



水月残月共通の白4の防ぎに黒5は定石。ここで白6が独特の防ぎで黒を惑わせる。黒7と固まる手は知らないかと打てないだろう。白12までに対し、黒13と押さえておく。ここで白14と引く手が新しかった。対して黒17と攻めるのだが、なかなか勝ちきれない。例えば白26まで止められるともう勝てない。この攻防は

次号まで続き、続く3月号で追い詰めを載せている。



これがその解決案で、黒17とトビニを打つのが斬新な手である。これだと23の手が打てる(17に打つことにより三々を逃れている)ので、簡単に勝てる。このように、盲点となる手を発見するのが研究の醍醐味である。

⑤第19回(珠友 259号、06年7月発行)

タイトルは、「坂田吾朗さん追悼」である。残念なこと、06年に普及の第一人者である坂田さんがお亡くなりになった。その追悼文

を書いた。その後吉澤さん、蔵田さん、西村さん、卯坊さんの追悼文を書くことになってしまったのが残念である。この号は坂田さんが造詣の深かった詰め連珠の作り方を書いている。

⑥第61回(珠友 301号、13年7月発行)

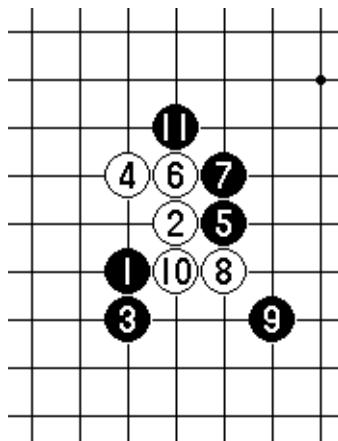
タイトルは、「総選挙」。言わずと知れた、AKBの事である。このころからアイドルを語るようになってくる。同じ年には「ももいろクローバーZ」、16年には「けやき坂」をタイトルにしている。やはりドイツに行つてユーチューブを見てから活発になつている。

⑦第85回(珠友 325号、17年7月発行)

タイトルは「理事長の仕事」。日本連珠社が公益社団法人となり、その理事長に就任した。そういうことも書いておこうと思つて書いたのだが、連珠世界では書き切れなかつた細かな仕事

も書いている。⑧第90回(珠友 330号、18年5月発行)

タイトルは、「白4コスミで八題」である。これは各珠型で白4を2の斜めに打つて八題が可能なものが多かったもので、これでまとめている。例えば、銀月だと次のようになる。



黒5は八題目の着手なのだ、この研究がA級の井上戦で生きることになった。ざっと百回の歴史を紹介したが、次の目標は当然二百回である。できれば珠友五百号あたりまで続けられたらいいと思つているが、いつまでできるだろうか？